

# 源流探険の進め方

## 源流探険に行く前に

- 源流はどうなっているかを予想させる。
- 川にはどんな生き物がいるかを予想させる。  
(他にも、川の水の冷たさや、どんな植物が生えているか等についても予想させてもよい。)

## 源流探険を行う中で

- 五感で川を感じる (どの箇所でもできます。)
  - ・水に手を入れてどれだけ我慢できるか試す。(ここで、**なぜ夏でもこんなに水が冷たいのか**投げ掛けてみてください。正解は**夏でも水が冷たいのは、温まりにくい土中を通ってくるためです。その場で土の温度と水の温度を測らせてみると、気づく子も出てくるでしょう。**)
  - ・川の流れの音を聞く。(川の流れの音を絵で表現するという方法もあります。)
  - ・臭いをかぐ。
  - ・湧き出した水を飲む。(①の場所で試してみてください。)
  - ・透明度を見る。(人が入る前に、⑩の土手の上から観察すると良いでしょう。)
- ※ 事前または事後に自分たちの地域の川と比べてみるといいでしょう。
- 水生生物、水辺の生き物の観察 (どの箇所でもできます。)
  - ・石の裏をはぐると、下のようなきれいな水にしか棲まない水生生物が見られます。水生生物を見ることで川の汚れ具合を判別できます。自分たちの地域を流れる川と比較してみるのも良いでしょう。



## ●別紙の観察箇所での観察

- ・3本目の道の奥は水が全くなくなります。その時に、「**結局、源流ってどこだったの?**」という疑問が浮かぶでしょう。そこで、「源流はいったいどこなのか」を考えさせてください。もしも、子どもから考えが出なかったら、①と⑩の場所を思い出させてあげてください。そして、「**源流とは一箇所ではなく、いろいろな所から湧き出した水が集まって川になっているんだよ。**」とまとめると良いでしょう。
- ・「**なぜこんなに水が澄んでいるのか。**」「**なぜ夏でも水は枯れないのか。**」といったことについても考えさせてください(子どもたちからこの疑問が挙がってくれば最高)。この時も、①と⑩の場所がポイント。正解は**水は澄み、夏でも枯れることはないのは、降った雨が腐葉土や火山灰で濾過・浄化され、ゆっくりと流れ出てくるためです。**このことは、**学校に帰ってから模擬実験を行うことでも確かめられます。**

## 源流探険を終えた後に

1. 源流探険を通して気づいたことや感じたこと、不思議に思ったことをまとめます。(発見カードなどを使うと良いでしょう。)
2. 個々に気づいたことを全員(又はグループ)で分かち合います。発見カードにいくつかの項目があれば項目ごとに順番に発表していくと良いでしょう。
3. 友だちの発表を聞いて、考えたこと、気づいたこと、疑問に思ったことなどを出し合ってみましょう。何も出てこないときは、「**どうして〇〇だったのかな。**」というように子どもに考えさせたいことを投げ掛けても良いでしょう。
4. 次は、どんなことを調べてみたいか(やってみたいか)を考えさせましょう。